

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」  
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び  
II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成  
III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築  
IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成  
V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 つくば市立並木小学校 】

1 実践テーマ	II・V
2 実施対象者 (学年・人数)	1年生・46人 2年生・58人 3年生・61人 4年生・66人 5年生・77人 6年生・68人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (道徳、特別活動、体育「並木小オリンピック」) ② 行事名 (オリンピック・パラリンピック講演会) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	1. たくさんの運動競技に触れ、興味・関心を高めることで、児童が生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を高める。 2. グローバルマナーやおもてなしの心を知ることを通して、多様な文化や相手の立場になって考えることの大切さや適切なふるまい方についての理解を深める。
5 取組内容	1. 江上いずみ先生による講演会 筑波大学客員教授である江上いずみ先生を講師として招聘した。 江上先生からは、おもてなしの意味、第一印象をよくするために大切なこと、相手意識をもった言葉かけ、分離礼、物の渡し方、ノックの仕方、握手の仕方等について教師や児童と実演を交えながら丁寧にお話ししていただいた。また、「I'm POSSIBLE.」の動画やテレビ番組に紹介された礼儀に関する動画を視聴した。江上先生は、講演後、体育館の出口で児童一人一人を心を込めて見送ってくださった。
	 

## 2. 道徳

道徳では、「おもてなしの心」講演と関連して、親切・思いやりや礼儀について学習した。相手を思いやり、相手の立場をよく考えて親切にすることの大切さに気付いたり、これからの自分の行為について考えたりすることができた。また、あいさつや礼儀について話し合い、気持ちのよいあいさつをしていこうという気持ちを高めることができた。

## 3. 並木小オリンピック

本校では、昨年度までの体力テストの結果により、投力の不足が課題として挙げられている。そこで、今年度は、投げる力の向上を目指して、1年間取り組むことにした。そこで、投力の向上に関連のある競技であるとともに、身近な運動の延長であり、オリンピックの競技種目でもあるものを選択し、並木小オリンピックを開催することにした。低学年では、腕の力と体幹を養う鉄棒運動を、中学年ではハンドボール、高学年では、ティーボールを強化種目とした。

### ①器械運動「鉄棒名人になろう」

1年生～3年生の取組としては、1年間の日々の鉄棒練習における集大成を「並木小オリンピック！できるようになったよ！」と題して、保護者向けの動画を作成し、配信した。児童は、自分の目標に沿って練習し、できるようになった技を披露した。動画を視聴した保護者からは好評を得ることができた。



### ②ゴール型競技「ハンドボールに親しもう」～ハンドボール教室～

4年生では、昨年度に引き続き、筑波大学教授、男子ハンドボール部監督である藤本元先生ご夫妻を講師として招聘した。

藤本先生からは、オリンピック種目であるハンドボール競技の歴史や特性について動画やオリパラクイズを交えながら説明していただいた。また、ハンドボールを使ってハンドリングスキル、スローイングスキル、シュートスキルの練習をしたりシュートゲームをしたりした。シュートゲームは「並木小オリンピック」と題して総当たり戦を行い、白熱した試合となった。

5年生では、昨年藤本先生から教えていただいたスキルを練習したりシュートゲームを行ったりした。5年生でも「並木小オリンピック」シュートゲームを総当たり戦で行い、昨年よりもレベルアップした試合内容となった。



③6年生ベースボール型競技「ティーボールを楽しもう」

6年生では、ベースボール型の競技であるティーボールを学習した。東京オリンピック・パラリンピック大会では、女子ソフトボール競技での日本選手の活躍が期待されていることを紹介し、児童の興味・関心を高めた。ゲーム形式の活動では、「並木小オリンピック」を開催し、総当たり戦を行った。女子の活躍も見られ、児童たちはゲームを楽しみながら投力の向上を目指すことができた。



6 主な成果

- グローバルマナーやおもてなしの心について具体的に知ることで、自分の生活を振り返り、相手の立場になって考え適切なふるまい方を実践していこうとする意欲が高まった。
- 専門家による指導を受け、ハンドボールの特性に触れたりダイナミックなスキルを体験したりすることで、ハンドボールや運動することに対する興味関心が高まった。
- 児童の感想
  - 「これからは目を見て人と話していきたい。あいさつをしてから礼をするということを初めて知った。」(2年生)
  - 「握手のマナーやノックの回数などが心に残った。これからの生活に生かしていきたい。」(4年生)
  - 「日本で外国のお客様をお迎えするときのマナーや、日常生活でも活用できる礼儀についてとてもよく分かった。相手のことを思って行動していきたいと思った。」(6年生)
  - 「ハンドボールの学習では、思いっきり体を動かすことができるととても楽しかった。ハンドボールをもっとやりたいと思った。」(4年生)

7 実践において工夫した点(事業の特色)

- おもてなしの心では、各学年の児童の実態に応じて、内容や時間を工夫して講演をしていただいた。そのため、どの学年の児童も講演内容を理解し、自分の生活に生かしていこうとする意欲が高まった。
- ハンドボール教室では、本校の保護者でもある講師を招聘し、地域人材の活用につながった。
- 1年間を通して、「並木小オリンピック」を開催することにより、「体育の学習」と「遊び」をつなげ、運動に親しむ気持ちの高揚を図った。

8 主な課題等

- 体育や道徳、特別活動において年間計画にオリンピック・パラリンピックについて位置付け、計画的に実践していきたい。

9 来年度以降の実施予定

- 今後も継続して取り組みたい。児童一人一人が本事業の意義や内容を理解することを通して、主体的に行動しようとする力を育成していきたい。